



# REAL RACING

天候:晴れ(10月27日予選日)

コースコンディション:ドライ

気温:21°C(12時35分時点) 路面温度:25°C(12時35分時点)

10月27(土)~28(日) 三重県・鈴鹿サーキットで2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権最終戦が開催された。

10月27日(土)予選。午前中は、肌寒さの残る鈴鹿サーキットだったが、午後には気温も上がり暖かさを感じる気候となった。定刻12時35分となり開始されたQ1予選は、気温21°C、路面温度25°Cというコンディション。午前中のフリー走行ではウェットコンディションだったものの、好調の兆しを見せたリアルレーシング#17の塚越広大は予選Q1が開始するとミディアムのニュータイヤを装着し、コースに向かった。ところが、セッション開始早々に他チームのマシントラブルでシケイン付近のコース上にオイルが撒かれてしまった為、赤旗が掲出されることになってしまう。オイル処理が終わり、残り時間を約14分としてセッションが再開されると、コース状況を確認する為コースインする。一度ピットに戻り、再度ミディアムのニュータイヤに履き替え、残り時間6分30秒というところで後半アタックの為、コースに向かった。ウォームアップラップを経て渾身のアタックを魅せた塚越は、チェッカー直前に1'38.575というタイムを叩き出し、Q1を2番手で終了しQ2へ進出を決めた。

そして7分間のQ2が始まったのは、当初の予定より15分遅れた13時20分。ソフトのニュータイヤでコースイン予定の塚越はタイミングを待ち、残り4分半でピットアウトする。ウォームアップラップを早々に終えアタックに入り、着実にタイムアップを計り1'38.180でQ2を3番手タイムにて終了、Q3へ進出した。

Q3セッションが開始されたのは13時37分。Q2同様にタイミングを待ち、残り3分半で、ソフトニュータイヤを装着しコースインする。その結果1'38.524のタイムをマークし、翌日の決勝スターティンググリッドを5位から出走することに決めた。

天候:晴れ(10月28日決勝日)

コースコンディション:ドライ

気温:21°C(13時15分時点) 路面温度:23°C(13時15分時点)

28日(日)太陽の下では暖かさを感じられる鈴鹿サーキットで2018年シーズンの締めくくりとなる、最終戦の決勝を迎えた。



# REAL RACING

決勝レース開始の定刻 13 時 15 分に 43 週のレースが開始。上位陣の中でもタイヤの選択が大きく分かれた状況で、5 位から出走の塚越はソフトタイヤを装着しスタートを切った。オープニングラップから前車を追い込む走りを魅せる塚越は、2 周目の 1 コーナーで前車をパスし 4 番手に浮上する。1 台でも前へ、果敢な攻めの走りを魅せる塚越は 12 周目を終えたところでピット作業に入る。ミディアムタイヤに履き替えコースイン。マシンがコースに戻ると見た目上の 13 番手を走行することとなる。他チームのピット作業により順位の変動が激しくなる中、他チームのピットアウト時に 2 台のマシンに先行を許す形になってしまったが、それでも諦めず前車の隙をねらいポジションを戻していく。

全車がピット作業を終えた 35 周目の終わりには、スタート時と同様の 5 番手を走行していたが、悔しくも 36 周目に 1 台の車両にオーバーテイクを許し、6 位に順位を落としてしまう。粘り強く、諦めない走りを見せ続け残りの 7 周で更なるポジションアップを狙い続けたが、そのままの順位でチェッカーを受け、最終戦を 6 位で終えた。

今シーズンも沢山のご声援を頂き、誠に有難うございました。昨年 10 周年を迎え、今シーズンは新たな 10 年を目指してカーナンバー17 を背負いシリーズに挑みました。長年共に歩み続けたドライバーの塚越、チームスタッフ、そしてファンの皆さまと共に、気持ちも新たに戦い続けた 2018 年シーズンでしたが、シリーズランキングは 10 位という結果となりました。来シーズンこそは、皆さまの期待に応えるべく、勝利をご覧いただけるよう REAL RACING 一同更なる攻めの体制で挑んで参りたいと思います。

来シーズンも、皆様の変わらぬご声援をよろしく申し上げます。